

アンテリオンの ポテンシャル

— 臨床現場での様々な使用経験



座長

堀 裕一 先生

東邦大学医療センター大森病院

日時

2020年4月16日(木) 12:35~13:25

会場

東京国際フォーラム
Gブロック 4F G409

ハイデルベルグエンジニアリング社より待望の前眼部OCT「アンテリオン」が発売され、昨年の臨床眼科学会共催セミナーで発表されました。今回はその続報をお届けします。

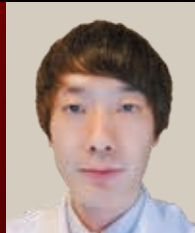
SS-OCTの技術を採用した「アンテリオン」は、ハイデルベルグ独自のアイトラッキング機能を搭載し、非常に高精細で再現性の高い画像を取得し解析ができることと、同時に光学式眼軸長計測が可能なが最大の特長です。

アンテリオンの高精細な画像は角膜前面から前部硝子体までの三次

元解析が可能であり、角膜形状、角膜疾患、白内障、緑内障、ドライアイなどの様々な前眼部疾患の診断に役立つことが期待されます。

また、近年急速に普及しつつある多焦点眼内レンズやトーリックIOL、ICLの移植には、眼軸長の計測はもちろん角膜の屈折、WTWIに関するデータが不可欠であり、「アンテリオン」はこれらの検査のすべてに対応できます。

今回は三人の先生方に日常の臨床でどのように活用されているのかをお聞きし、「アンテリオン」のポテンシャルを探りたいと思います。



演者

柿栖 康二 先生

東邦大学医療センター大森病院

アンテリオン角膜疾患への応用



演者

市川 慶 先生

青山総合病院／中京眼科

白内障眼に対するアンテリオンの使用経験



演者

埴本 宰 先生

はねもと眼科

アンテリオン日常診療の中での活用法

**HEIDELBERG
ENGINEERING**